

新しい世界遺産の登録

1. 今月、サウジアラビア・リヤドで開催された UNESCO 第 45 回世界遺産委員会において、アゼルバイジャンの文化遺産 1 件、自然遺産 1 件が新規登録されました。これで当国の世界遺産は文化遺産 4 件、自然遺産 1 件の計 5 件となりました。

2. 新たな世界文化遺産:Cultural Landscape of Khinalig People and “Köç Yolu” Transhumance Route(当館訳:フナルグの人々と「移動の道」移牧ルートの文化的景観)

北部グバ県フナルグ村はアゼルバイジャンで最も標高の高い集落として知られ、6 月下旬には咲き乱れる高山植物を楽しめます。グバ県中心部からフナルグ村へ至る険しい道路の途上で目にする山と溪谷のコントラストも見所の一つです。

UNESCO によれば、この文化的景観は、フナルグ村、大コーカサス山脈の高地にある夏の牧草地と段々畑、中部の低地にある冬の牧草地、そして「Köç Yolu」(移動の道)と呼ばれる全長 200km に及ぶ家畜(特に羊)の移牧(季節移動)ルートで構成されています。

UNESCO は今回の登録について、古来の道筋、一時的な牧草地・野营地、霊廟、モスクを含む有機的に進化したネットワークが、極限の環境条件に適応した持続可能な生態社会システムを示していると評価しています。

3. 新たな世界自然遺産:Hyrceanian Forests(ヒルカニアの森林群)

2019年、イラン北部カスピ海南岸沿いの 850 km²に及ぶヒルカニアの森林群が、独自の進化を遂げて多様な動植物を支える生態系を評価され、世界自然遺産に登録されましたが、今回、登録地域がアゼルバイジャン南部まで拡大されました。

UNESCO の発表によると、アゼルバイジャン南部のダンギャバンド及びイステイスチャイ溪谷は、ヒルカニアの森林群に属する非常に貴重な古代森林であり、イランで世界遺産登録された構成地域を補完するものです。

UNESCO はヒルカニアの森林群について、カスピ海南岸沿いに 2500~5000 万年の歴史を持つユニークな森林の山塊を形成しており、今回の新規登録地域は、ヒョウ、オオカミ、ヒグマなどの頂点捕食者を含む完全な生態系を構成し、森林には希少な固有樹種が多いと評価しています。

4. これまでのアゼルバイジャンの世界遺産(すべて文化遺産)と登録年は次のとおりです。

① Walled City of Baku with the Shirvanshah's Palace and Maiden Tower (2000 年)(城塞都市バクー、シルヴァンシャー宮殿、及び乙女の塔)

- ② Gobustan Rock Art Cultural Landscape(2007年)(ゴブスタンのロック・アートと文化的景観)
- ③ Historic Centre of Sheki with the Khan's Palace(2019年)(シェキの歴史地区とハーンの宮殿)

5. 世界遺産条約の締約国は、推薦を検討中の遺産を「暫定リスト」として UNESCO へ提出し、ここから毎年 1 件の世界遺産登録を推薦できます。アゼルバイジャンは自国の「暫定リスト」に下記 10 件を登録しています。

<https://whc.unesco.org/en/statesparties/az/>

(以上)